

小西省吾・田直記, 1994. 一九九三年度アケボノゾウ化石についての事業. 多賀町文化財・自然誌調査報告書第4集, 21-32.

長橋良隆・里口保文・吉川周作, 2000. 本州中央部における鮮新・更新世の火砕堆積物と広域火山灰層との対比および層位噴出年代. 地質学雑誌, 106: 51-69.

田村幹夫・雨森 清・小早川隆・荒川忠彦・北川明照・多賀 優・但馬達雄・西川一雄・三矢信昭, 1993. びわ湖東部中核工業団地造成地域の古琵琶湖層群について. 多賀町文化財・自然誌調査報告書第3集, 26-69.

田村幹夫・雨森 清・小早川隆・荒川忠彦・北川明照・多賀 優・但馬達雄・西川一雄・三矢信昭, 1994. 多賀町四手地域より産出する貝化石について. 古琵琶湖層群調査の中間報告会 - 滋賀県犬上郡多賀町四手のびわ湖東部中核工業団

地造成工事に伴う地学調査 -, 26-29, 多賀町教育委員会. 富永 修・昆虫化石研究グループ, 1993. 愛知川化石林にともなう昆虫化石. 琵琶湖博物館開設準備室研究調査報告, (1): 77-79

山川千代美, 1994. 多賀町四手の古琵琶湖層群より産出した大型植物化石. 多賀町文化財・自然誌調査報告書第4集, 51-56.

八尋克郎・林 成多・北林栄一, 2001. 大分県安心院盆地の鮮新統津房川層から産出した昆虫化石. 安心院動物化石群, 琵琶湖博物館研究調査報告, (18): 51-56.

(2013年12月6日受領, 2014年2月9日受理)

【短報】九州・宮崎県におけるウスイロツヤヒラタガムシの採集記録

ウスイロツヤヒラタガムシ *Agraphydrus ishiharai* (Matsui, 1994) は熊本県上村(現あさぎり町)の球磨川水系免田川産の標本を基に記載された流水性種である。本種はこれまでに本州, 四国, 九州(愛知県, 滋賀県, 島根県, 高知県, 熊本県)から記録されているが, その生息地は限られている(Matsui, 1994; Kamite, 2005; 林, 2009)。筆者はこれまで生息記録のない宮崎県大淀川水系において



図1. 宮崎県産ウスイロツヤヒラタガムシ.



図2. 採集した環境.

本種を採集しているので, ここに報告する。

10exs., 宮崎県高岡町浦之名, 21. VIII. 2008; 6exs., 同所, 3. X. 2013, いずれも筆者採集(図1)。

採集地は大淀川と支流の浦之名川が合流する地点の河川敷水際の礫間である(図2)。同所的にコモシジミガムシが多数みられた。本属種は一般に水の清澄な川岸の礫間に生息することが知られており, 中でも本種は渓流域ではなく, 比較的開けた中下流域に生息する傾向がある(林, 2009)。今回の採集地も大規模水系の中下流景観の場所であり, これまでの記録と一致する。2012年3月に同所を訪れた際にはまったく見られなかったことから, 成虫はある程度決まった時期に出現するものと考えられた。

本種は模式産地周辺では環境の変化により近年確認できなくなっており, 熊本県版レッドリストでは絶滅危惧IA類に選定されている。大規模河川の中下流域は一般的に都市開発の影響を受けやすいことから, 水質悪化や治水目的の河川改修により本種の生息適地は全国的に減少しているものと推察される。

本報をまとめるにあたり, 種々ご教示いただいた上手雄貴博士(名古屋市衛生研究所), 蓑島悠介博士(北九州市立自然史・歴史博物館), 岩切康二氏にこの場を借りてお礼申し上げます。

引用文献

- 林 成多, 2009. 島根県の水生ガムシ科. ホシザキグリーン財団研究報告, 12: 87-121.
- Kamite, Y., 2005. New records of *Agraphydrus ishiharai* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Honshu, Japan. *Elytra*, Tokyo, 33: 628.
- 熊本県希少野生動植物種検討委員会, 2009. 改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物-レッドデータブックくまもと2009-. 熊本県環境生活部自然保護課, 熊本.
- Matsui, E., 1994. Three new species of the genus *Enochrus* from Japan and Taiwan (Coleoptera: Hydrophilidae). *Transaction of the Shikoku entomological Society*, 20: 215-220.

(中島 淳 福岡県保健環境研究所)